

# 行 財 政 委 員 会

《 令和3年3月18日 》

( 案 件 )

1 令和2年度議会による行政評価、施策評価の予算措置の状況について

2 その他

## 令和2年度 議会による行政評価 施策評価の予算措置等の状況

### <資料一覧>

	ページ
資料1-1 ひとり親家庭への支援 . . . . .	3~6
資料1-2 少子化対策の推進 . . . . .	7~10
資料1-3 健康づくり支援の充実 . . . . .	11~17

令和2年度議会による行政評価 施策評価の予算措置等の状況

資料1-1

- 市総合評価 A: 計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進する。  
 B: ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。  
 C: 目標をやや下回る要因の分析と施策の見直しを要する。  
 D: 目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。

【施策評価】

(千円)

施策評価名	担当課	施策内容	市 評価	議会 評価	議会評価【総括コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備考 (R1年度 決算額)
ひとり親家庭への支援	子育て支援課	・ひとり親家庭への支援制度の充実とともに自立支援を推進し、ひとり親家庭が安心して暮らせる環境づくりを進めます。  (現況と課題) ・離婚件数はほぼ横ばいで推移していますが、離婚前の相談については増加傾向にあり、より早い段階で自立した生活が送れるよう、生活や就労等の支援につながる相談体制を充実させることが必要です。	B	現状維持	現状維持の意見が中心で、拡充の意見も多くありました。多くの議員がひとり親家庭の方の貧困状況や格差に課題を感じていました。その中で、どの事業も重要でよりきめ細やかな支援を求める声が多く、相談や支援体制の充実、制度の周知による自立支援を求める点で共通していました。新型コロナウイルスの影響についても、心配する意見がありました。 事務事業の中では母子家庭等自立支援推進事業が拡充の評価が多数を占めていました。より多くの職種や資格への対応を求める拡充意見が多く、制度の周知を図り実績数を増加させるための拡充意見も複数ありました。 以上の集約結果から、より多くのひとり親家庭の方が貧困状況に陥らないように支援し、より多くの選択肢を作り、制度の周知を図ることで、自立できる家庭を増やし、子どもの貧困や格差を是正できるよう施策の維持と母子家庭等自立支援推進事業の拡充を期待します。	590,763	599,990	△ 9,227	704,175
						予算措置状況			
						この施策を構成する3事業のR3当初予算額とR2当初予算額を比べると、9,227千円(1.5%)の減少となっている。 これは、施策を構成する児童扶養手当事務事業で1,831千円の減、母子家庭等自立支援推進事業で2,813千円の減、ひとり親家庭医療助成事業で4,583千円の減となったためである。  ※増減理由は各事務事業に記載			

【本施策を構成する事務事業評価】

市評価段階 A: 拡大、B: 現状維持、C: 縮小、D: 休止、E: 段階的に廃止、F: 即廃止(完了)

(千円)

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備考 (R1年度 決算額)
1	児童扶養手当事務事業	子育て支援課	母子・父子家庭又はそれに準ずる家庭で18歳未満の児童を養育している家庭に児童扶養手当を支給する(所得制限あり)。法改正により令和元年11月から年3回払いを年6回払いに変更。	B	—	<p>○ひとり親家庭の環境にも変化が出ているように感じています。今の時代に即した支援が出来るようによろしくお願いいたします。</p> <p>○今後、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、職を失う一人親が増える可能性もあると考えます。また離婚相手が養育費等支払いができなくなる可能性もあると考えます。一定の期間拡充する事などを要望します。</p> <p>○最低限の生活の保障の継続維持を望む。</p> <p>○手当の支給回数の見直し等、ひとり親家庭への支援に係る国の制度改正に対応していく必要がある。</p> <p>○親等の所得により、児童の社会生活に影響を与えてはいけないと思います。児童が安心して生活出来る様に今後ともお願いします。</p> <p>○対象児童数は減少傾向にあるのに、受給者数はほぼ横ばいであるということは、理由を調査する必要があると思います。ただし、児童に影響が出ないようにすることも大事。</p> <p>○支給回数が変更され、ひとり親家庭の生活も更に安定していることから、現状維持と致します。</p> <p>○離婚などによるひとり親家庭は増えており、施策の拡充は必要！！</p> <p>○約6億2千万円のフルコストの内、国庫支出金は約2億円である。市の一般財源は4億2千万円を占め、市の負担率も負担額も大きい。しかし、離婚やシングルマザーなどが率としては増加傾向であり、引き続き施策の拡充が必要と考える。近年のこどもの貧困問題解決のためには制度そのものの拡充が必要で、国の負担率のかさ上げも欠かせない。国に対して負担率のかさ上げを求めるなどの対応も行われたい。</p> <p>○令和元年度の支給状況は、少子化により対象児童数は減少しているが受給者数が増加している。また全部支給が約7割を占めている。このことは、本市でもひとり親家庭の経済的困窮度が増していると考えられ、児童扶養手当事業は継続して行わなければならない。本事業は令和2年度ではコロナの影響で更に受給者が増加すると思われ、セーフティネットとして広く市民に周知し継続していくべき。</p> <p>○児童福祉手当以外にも生活保護や社会福祉協議会の施策もありますから現状維持でいいと思います。</p> <p>○受給者数が横ばいであれば、現状維持が妥当と考えます。</p> <p>○引き続き必要な方に、必要な時期に届く事務を維持していただきたいと思います。</p>	492,392	494,223	△ 1,831	616,571
予算措置状況										
R3当初予算額とR2当初予算額を比べると、1,831千円(0.4%)の減となっている。										
これは、児童扶養手当の受給者減などにより扶助費で1,784千円の減となったためである。										

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備考 (R1年度 決算額)
2	母子家庭等 自立支援推 進事業	子育て支援課	経済的自立に効果的な資格 を取得するため養成機関で 学んでいる期間の生活費負 担軽減のための給付を行う。 市の指定する教育訓練講座 を受講したひとり親家庭の親 に対して、講座終了後に受講 料の一部を支給する。	A	一	<p>○親がスキルアップに向き合うことは、教育環境的にも良いことだと思いますので、より多くの職種に挑戦出来る体制を希望します。</p> <p>○今後テレワークの普及拡大がより一層進むと予測されるが、多種多様な資格を取得することが、就労支援となり自立する後押しとなると思われる。事業の継続を望む。</p> <p>○母子家庭の多くは十分な準備がないまま母子家庭となるケースが多く、子育て、生活、就業、養育費の確保など様々な問題を抱えており、それらの課題を把握・整理し適切な支援につなげるため、既存の相談・情報提供できる窓口における寄り添い型支援を充実させる必要がある。</p> <p>○母子家庭の方が自立し、支援の必要がなく社会生活が行える事は素晴らしいことです。一人でも多く、1日でも早く自立出来る様、頑張ってください。</p> <p>○母子家庭の人が自立できるように、資格取得のために養成機関にて学ぶ間の一部支給生活の負担軽減を図るための支援は必要である。子供のためにも早急に自立出来るようこれからも応援してあげてほしい。</p> <p>○高等職業訓練促進給付金は、資格を得るために学ぶ期間の生活を維持できる金額であり、資格取得後の就労は、収入も安定し、子育てにかけられる費用と時間も変わってくると思いますので、より多くの方に利用していただけるように、市で認める資格を増やしていただきたいです。</p> <p>○母子家庭の親の自立支援は強めていくべき。</p> <p>○フルコスト約2千2百万円の内、国庫支出金が1千3百万円、市の一般財源は約9百万円の事業で、母子家庭の母親の自立支援のため、資格取得期間中の生活費や受講料の一部を給付する事業である。母子家庭支援のためには大切な事業であり、給付額や対象者の拡充を求める。なお、受給者が資格を活かしてどう就労につながっているのかの事後検証も必要ではないか。市報などを通して、体験者の経験談などを紹介して制度のPRなどにも努められたい。</p> <p>○高等職業訓練における受給者が看護師、准看護師などになられた実績は高く評価出来る。そのことで全部支給から一部支給に7名の方が変更されたことは、扶養手当の減額にもつながる。ただし、申請者、受給者とも人数的にはまだ不十分だと思われ、さらに実績数の増加を目標に拡充すべきと考える。</p> <p>○自ら自立しようという思いの方を支援する事は重要です。志ある方が増加するようであれば予算補正の方向も考えて欲しい。</p> <p>○高等職業訓練給付金や教育訓練給付金は今後も継続してください。ハローワークや就労支援団体との連携により、職種選択の幅を広げることもご検討ください。</p> <p>○現状維持しながら、制度の存在を周知してもらえるように取り組んでいただきたいと思います。</p>	23,489	26,302	△ 2,813	17,746
予算措置状況										
R3当初予算額とR2当初予算額を比べると、2,813千円(10.7%)の減となっている。										
これは、高等職業訓練促進給付金の対象者減により扶助費で2,830千円の減となったためである。										

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備 考 (R1年度 決算額)
3	ひとり親家庭 医療助成事 業	子育て支援課	18歳に達した最初の3月31日 までにある児童がいる母子世 帯の母、父子世帯の父又は 養育者と子の入院、通院に係 る医療費の助成を行っている。 1医療機関あたり入・通院各 500円/1日(月2日限度) 平成30年度10月より窓口業 務等を一部委託。	B	—	<p>○安心して、医療を受けられる体制は重要ですので引き続きよろしくお願 いいたします。</p> <p>○健全な健康を保つためにも継続を望む。</p> <p>○経済的な理由により、適切な医療を受ける事ができず、健康被害が深 刻化するケースが多い。医療費助成の更なる拡充が必要ではないか？</p> <p>○医療助成を行った場合、医療助成を行っていない方との医療費の比 較検討も必要だと思います。現状維持でお願いします。</p> <p>○医療助成に関しては、ひとり親家庭の健康維持及び生活の歯車を壊 さないために継続は必要である。ただし、現状は横ばいであるが、状況 によれば拡充の検討も必要。</p> <p>○児童扶養手当と同じく、ひとり親の負担が減る大変重要な事業である ため現状維持に、致しました。</p> <p>○医療費助成で1/2は府の支出金ですが、きびしい環境下で頑張っている 世帯に対し、市独自の支援策をご検討いただきたい。</p> <p>○大阪府の福祉医療助成制度の一つで、基本的に、児童扶養手当を受 給している世帯の世帯員の医療費を助成している。事業費約7千3百万 円の内、1/2は府支出金となっている。事務事業①と同様、ひとり親家庭 の健康・経済支援策として拡充すべきである。たとえば、医療機関での窓 口負担額を市独自にさらに支援することなどを、ぜひ検討いただきたい。</p> <p>○こども医療費助成と同様に一部自己負担があり、18歳までの対象で ひとり親家庭の医療費への支援策として有効な事業であると思う。また、 養育者も対象としており、生活支援にも繋がる手厚い支援事業であり、 継続されることを望む。</p> <p>○一部負担額も少額故に医療費助成は充足していると思う。</p> <p>○対象者数が横ばいであれば、現状維持が妥当と考えます。こども達に 対しては疾病予防の観点から、日頃から規則正しい生活ができるよう、 保護者の方に指導するようにして下さい。</p> <p>○現状維持していただきたいと思います。</p>	74,882	79,465	△ 4,583	69,858
							予算措置状況			
							R3当初予算額とR2当初予算額を比べると、 4,583千円(5.8%)の減となっている。			
							これは、ひとり親家庭医療費の助成件数減 により扶助費で4,525千円の減となったため である。			

令和2年度議会による行政評価 施策評価の予算措置等の状況

資料1-2

- 市総合評価 A: 計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進する。  
 B: ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。  
 C: 目標をやや下回る要因の分析と施策の見直しを要する。  
 D: 目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。

【施策評価】

(千円)

施策評価名	担当課	施策内容	市 評価	議会 評価	議会評価【総括コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備考 (R1年度 決算額)
少子化対策の推進	子育て支援課	・若い世代が安心して結婚・出産・子育てができる環境づくりを推進します。  (現況と課題) ・少子高齢化が進み、生涯未婚率も上昇する中、若い世代が結婚の希望を叶え、新生活に踏み出せる支援が必要です。	C	現状維持	施策評価には現状維持を中心とするものの、拡充と縮小にばらつきがありました。簡潔に集約すると、少子化の現状に対する課題意識はほとんどの議員が感じており、反面、その課題を解決するための事務事業に関しては有効性に不足を感じていることから、より効果的な事業を求める評価が多数を占めていたと考えられます。この傾向は拡充、現状維持、縮小のどの評価議員にも見られた意見であったため、少子化対策をより推進するとともに、事業を見直していただく必要性が期待される評価結果となりました。 特に出会いの機会創出事業に関しては、縮小が7評価あり、縮小評価以外の議員からも事業の内容や効果が見えないという意見が多く、効果の検証を求める意見や事業の見直しを求める意見が多数ありました。子育て支援課が実施すべき事業であるか、少子化対策に効果的な事業であるか等を検証し、より良い事業実施に見直しいただけることを期待します。 結婚新生活支援事業に関しては、施策評価同様にばらつきがあった。定住促進的要素の効果を評価する意見や逆にそれ故に都市計画課などで行うべきという意見もありました。また、若い世代にとって価値があるという意見や、少子化対策に繋がっているとは言い難いという意見もあり、現状維持がおおよその意見集約であると言えます。	9,409	6,950	2,459	5,678
					予算措置状況				
					この施策を構成する2事業のR3当初予算額とR2当初予算額を比べると、2,459千円(35.4%)の増加となっている。これは、施策を構成する出会いの機会創出事業で1,595千円の減、結婚新生活支援事業で4,054千円の増となったためである。  ※増減理由は各事務事業に記載				

【本施策を構成する事務事業評価】

市評価段階 A: 拡大、B: 現状維持、C: 縮小、D: 休止、E: 段階的に廃止、F: 即廃止(完了)

(千円)

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備考 (R1年度 決算額)
1	出会いの機会創出事業	子育て支援課	異性との交際・結婚を望みながらも、その相手に出会えていない独身男女に対し、出会いの場を提供するためのセミナー付イベント等を開催。	B	—	<p>○出会いの機会創出は、大変良い事だとは思いますが、少子化対策としては弱いように感じます。むしろ、観光促進などで泉佐野の良いところを紹介できるイベントにして参加者を増やす方が良いと思います。参加人数が限定なので、出会いの機会としても参加者が多い方が良いように感じました。</p> <p>○委託でイベント等を行っているとの事。事業の効果はどうなっているのか、実際に婚姻につながっているのか、交際後のフォローが必要だと思う。この事業が定住促進につながっていく事を要望します。</p> <p>○3ヶ年の実績を踏まえ、本事業を縮小し、その予算を他の事業(例えば、②結婚新生活支援事業、住宅総合助成事業等)へ振り替えてみてはどうか。</p> <p>○行政が実施する仲介事業としては参加者の安心感はあると思う反面、参加者のその後の追跡調査、アンケートがないのは残念である。どのような効果があったのかは、当然必要ではないのか。何の調査もしない現状では、縮小の評価とする。</p> <p>○市外のイベント業者に丸投げの委託事業は効果なし。予算は現状のままでも、市内業者や市の青年団で企画・推進することこそ様々な相乗効果が期待できるのではないかと。</p> <p>○やりっぱなしの事業であり、結果の検証ができていないと思います。PDCAサイクルに沿った事業にして頂きたいです。</p> <p>○少子化に必要なのは、いかに出会いが必要で結婚をすることが必要です。市としては、イベントも3年間やってきて、一組も結婚に至らないというのは、いくら時間がかかる交際期間が必要といっても問題であると思います。一度内容の検討が必要ではないかと思えます。また、従来のイベント内容を変更し、定員より減らし参加者が減少したとありますが、増やす方向で検討して頂きたい。</p> <p>○出会いの機会が、少ない方々にとっては、出会いの場の提供だけでなく、異性とのコミュニケーションの取り方なども経験できる事業が、市単独事業であることを大変評価致しております。独身の方達が、イベントを企画構成から参加できる取り組みがあれば、違った出会いにもなり、若い世代に自分たちのまちづくりに関心を持ってもらうことにも繋がると思えます。</p> <p>○定住促進施策として三世代同居支援など所管の都市計画で行えばよい。</p> <p>○フルコスト約4百60万円全額を市の一般財源で実施している。異性との交際・結婚を望む独身男女の出会いの場を提供する「セミナー付イベ</p>	1,595	3,190	△ 1,595	2,907
予算措置状況										
R3当初予算額とR2当初予算額を比べると、1,595千円(50.0%)の減となっている。										
これは、出会いの機会創出事業のコロナ禍を踏まえた見直しにより委託料で1,590千円の減となったためである。										

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備 考 (R1年度 決算額)
						<p>ト」等の開催が事業内容だが、この事業内容では地方創生交付金の対象とならず、市の単費で実施し続けている。そもそも子どもを対象としていない事業を子育て支援課で所管していること自体に違和感がある。これでは、結婚に結びついたとしても、結局は「出産」が成果指標となり、「出産」が夫婦の自由であることから行政として取り組むには無理がある。継続するのであれば、「定住促進」事業として、三世帯同居支援などを所管する都市計画課などで行うべきと考える。</p> <p>○民間の結婚相談所が行っている集団お見合い事業と認識している。行政が行うことで費用面や信頼性から安心して参加してもらっていると想像するが、同一人物が何回も参加するより、新規参加者を増やす努力を委託事業者にお願いすべき。まだ婚姻に至ったケースは無いと聞くが、多くの人に参加したいと思える様なイベントを提案する事業者を選定し、市民に広く知ってもらえるようにすべき。</p> <p>○少子化対策の事業として似つかわしくない事は否めませんが今の時代誰かが「お節介」役を引き受ける必要があると切に思います。民間事業者を利用する手もありますが高額で近寄りたいたいものがありますから現状維持でいいですから続けて欲しい。また、人と人とのつながりはすぐさま結果が出るものでもありませんから複数年にわたり関わってあげて欲しい。</p> <p>○人口減少化、少子化を考えるとこの事業は継続していくべきと考えます。定住・移住化促進をしている他部署との連携を強化して下さい。</p> <p>○少子化対策に繋がっているとは言い難いため、もっと効果のある事業に見直すか、市役所がやる必要のない事業であると考えます。民間でできることは民間に任せ、結婚相談所登録料補助などにする方が費用対効果が期待できるのではないかと。</p>				

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備考 (R1年度 決算額)
2	結婚新生活 支援事業	子育て支援課	経済的理由で結婚に踏み出せない市民の方へ、結婚に伴う新生活に係る費用(住居費・引越し費用)を支援(最大30万円)することで、結婚の希望を叶えてもらう事業。	B	—	<p>○結婚出来る環境整備は大変良いことだと思います。これからも支援していただきたいと思います。ただし、少子化対策に対しての立証が4, 5年様子を見ないと分からないため現状維持でお願いします。結婚しやすい環境整備を進めていただきたいです。</p> <p>○この事業に対するアピールを積極的に行ってほしい。</p> <p>○結婚新生活支援は、定住施策にもつながる事業だと認識する。全支援者(世帯)に対しての市場調査を望む。</p> <p>○予算の拡充をお願いしたい。</p> <p>○昨今の少子化問題を考え必要な施策である。今後とも、市民の方々に利用して頂き素晴らしい結婚新生活を始めて頂きたいと思います。</p> <p>○少子化を止めるには、子どもを増やすことで、未婚化、晩婚化で、第一子出産の年齢上昇を早婚し、早く子どもを産める環境に持って行かないといけないと思います。それには、早婚し早く子どもを産みやすいように、年齢よっての金額も検討していただければと思います。</p> <p>○十分な収入に至らない、若い世代にとって、結婚のスタートである住居確保の最大30万円の補助は、大きな支援であり、定住促進にもなる大切な事業であると思いますので、予算確保し件数増のため拡充と致します。</p> <p>○転入者の住宅取得支援をしている都市計画課で行えばよいと思います。</p> <p>○この事業も、経済的理由により結婚に踏み出せない低所得者を対象に婚姻に伴う新生活を経済的に支援する一環として、住宅取得費用、引越し費用などを支援するもので、最大30万円としている。この事業のR元年度実績は12件で、フルコストは約4百50万円と多くはなく、国庫支出金も1百40万円受けている。しかし、この事業も子育て支援課の事業となると出産・子育てが成果指標とならざるを得ず、事務事業①同様に行政として無理が出てくると考える。継続するのであれば、これも「定住促進」事業として、転入者への住宅取得を支援している都市計画課などで行うべきである。</p> <p>○経済的な理由で結婚に踏み切れない人を対象にした事業で、新生活に入るための支援金である。目的の少子化対策や生活支援に直接影響のある支援ではないので、一時的なものになるが、この支援事業があるから結婚に踏み切るカップルもあるかも知れないので、定住促進を目指す意味でも継続すべきと考える。</p> <p>○昨今、ご縁があっても経済的理由で結婚を延期、断念する方がいるのであれば行政の支援は有難い。</p> <p>○各種支援制度は今後も継続して下さい。</p> <p>○少子化対策に繋がっているとは言い難いため、もっと効果のある事業に見直していただきたいです。</p>	7,814	3,760	4,054	2,771
予算措置状況							R3当初予算額とR2当初予算額を比べると、4,054千円(107.8%)の増となっている。			
これは、結婚新生活支援事業補助金の申請件数の増などにより、4,050千円の増となったためである。										

令和2年度議会による行政評価 施策評価の予算措置等の状況

資料1-3

- 市総合評価 A: 計画以上に進捗しており、このまま継続して施策を推進する。  
 B: ほぼ計画通り進捗しており、継続して施策を推進する。  
 C: 目標をやや下回る要因の分析と施策の見直しを要する。  
 D: 目標を大きく下回る要因の分析と施策の見直しを要する。

【施策評価】

(千円)

施策評価名	担当課	施策内容	市 評価	議会 評価	議会評価【総括コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備考 (R1年度 決算額)
健康づくり支援の 充実	健康推進課・ 国保年金課	・健康マイレージ事業、健康教室・健康相談等の健康づくり事業の実施や、健康づくりに関する情報提供により、健康づくりの多様な選択肢の提供の充実に努めます。 ・保健指導等の実施により、自主的な健康づくり活動を支援し、生活習慣病の予防及び介護予防を図り、健康寿命の延伸に努めるとともに、医療費の抑制を図ります。 ・食育や心の健康づくりを推進し、生涯にわたる健康づくりを支援します。  (現況と課題) ・働き方の変化などにより、生活リズムの多様化が生じ様々なニーズがある中、健康づくりの多様な選択肢の提供等、その環境づくりが求められています。 ・超高齢化が進む中、健康寿命の延伸を図るためには、自らが健康づくりに励む意識とその支援体制の充実とともに、民間事業所での取り組み、そして地域の実情に応じた普及・啓発・実践が必要となります。	B	現 状 維 持	施策評価は他の施策評価と比較して、拡充が非常に多い結果となりました。高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響を重視し、健康づくりの重要性を多くの議員が感じています。特に拡充の意見に多く見られたのは、広報や啓発の拡充の意見です。より多くの施策効果を出すためには、より多くの市民に参加していただく必要があるという意見が主となる施策評価となりました。より多くの市民が健康に暮らせるよう、施策の維持と効果を期待します。 事務事業評価に関してはどれも、概ね施策評価と同様の意見となりました。健康づくりを推進する事業について、縮小や廃止の意見はほぼなく、拡充を求める意見が多くありましたが、その多くは施策評価と同じく、広報や啓発を積極的に進め、参加者を増やすことで効果の拡充を期待するものです。	14,272	14,140	132	22,233
						予算措置状況			
						この施策を構成する5事業のR3当初予算額とR2当初予算額を比べると、132千円(0.9%)の増加となっている。これは、施策を構成する健康づくり事業で349千円の増、公衆衛生対策事業で増減なし、健康増進健康指導事業で166千円の減、健康マイレージ事業で51千円の減、健康増進事業で増減なしとなったためである。  ※増減理由は各事務事業に記載			

【本施策を構成する事務事業評価】

市評価段階 A: 拡大、B: 現状維持、C: 縮小、D: 休止、E: 段階的に廃止、F: 即廃止(完了)

(千円)

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備考 (R1年度 決算額)
1	健康づくり事業	健康推進課	<p>・第2次健康増進計画・食育推進計画を令和2年3月に策定した。以下の基本目標の達成のため取組を展開する。平成29年度には健康都市連合に加入し、市民の健康づくり、健康な都市づくりをより一層推進する。</p> <p>①健康寿命の延伸 ②生活習慣病の発症及び重症化の予防 ③健康を支え、守るための環境整備</p>	B	-	<p>○健康指導事業は、大変だと思いますが推進して行けるようにお願いします。ハイキングは好評のようなので、新たな感染対策など必要だとは思いますがよろしくお願ひいたします。温水プール教室は、防災の観点からも水害対策として身を守る方法なども教えていただきたいと思ひます。また、夏場だけでも各学校プールなどでも出来ると良いと思ひます。</p> <p>○健康推進、食育推進等健康づくりは今後の課題であると考えます。また健(検)診の受診率向上にも繋げる事を要望します。そのうえで市全体で健康づくりに意識を持てるように、拡充としました。</p> <p>○健康状況に合わせた健康づくりに取り組めるよう、集団・個別による保健指導の更なる充実を。</p> <p>○全国的に生活習慣病による患者が増えている。若い時から健康管理するのは良い事だと思ひます。健康管理システムの運用維持や拡大などお願ひします。</p> <p>○生活習慣病の人が増えています。まずは、市民自ら健康管理が必要で、検診をし自分の健康状態を把握しながら、予防が必要と思われる。それに対する健康維持に対するの推進、支援をお願ひします。</p> <p>○システム管理により、目標どおりの成果であることを評価致します。アンケート調査結果を分析・取り入れ、市民が自身でも考える機会が増えるよう健康都市づくりを推進してください。</p> <p>○健康寿命を伸ばすこと、生活習慣病の予防について今後も努力をお願ひしたい。健康管理システムの活用では、個人情報管理をきちんと行っていたきたい。</p> <p>○健康寿命の延伸、生活習慣病の予防などにひきつづき努力されたい。なお、健康管理システムの運用に当たっては、健康診断の数値などの重要な個人情報、膨大に蓄積されていると推察されるため、本市の業務に限定し、厳重なセキュリティー対策に努められたい。</p> <p>○不特定多数に対して、検診の推進や、減塩、禁煙等の啓発は引き続き必要な事業であると思われるので継続してもらいたい。府が今年度から実施している喫煙に関する条例についても、市内の状況等を把握し、啓発を行うべきと考える。</p> <p>○行政が働きかけるまでも無く市民の方の健康志向意識は高いと考えます。データ管理から見えてくる方向性を市民の方に示す事により良い健康づくりが構築されます。</p> <p>○健康管理の必要性のさらなる周知徹底に努めて下さい。</p> <p>○引き続き事業を維持していただきたいと思ひます。</p>	9,810	9,461	349	13,730
予算措置状況							R3当初予算額とR2当初予算額を比べると、349千円(3.7%)の増となっている。			
これは、ウォーキングイベント事業助成金が回数減で500千円の減となった一方、電算システム改修委託料で693千円皆増、がん患者医療用補正具購入費助成金で150千円皆増となったためである。										

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備 考 (R1年度 決算額)	
2	公衆衛生対策事業	健康推進課	大阪府が設置している泉佐野保健所のための用地(泉佐野市上瓦屋583-1)の借地を行っている。		B	<p>○泉佐野保健所は南泉州地域でも重要な施設なので支援は必要だと思いますが、今後どこかで泉佐野市の負担に対しての見直しが出来ると良いと思います。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに、公衆衛生環境の向上への意識が高まっている。(感染症の抑止には、公衆衛生環境の整備、充実が有効である。)</p> <p>○保健所機能維持のため必要である。</p> <p>○今のままの保健所機能維持をお願いします。</p> <p>○新型コロナ対策上から、又、今後の感染症対策からもこの機会にこそ拡充すべきです。府・泉佐野保健所・りんくう総合医療センター、各医師会、市内の医療施設などと調整を行いつつ、早急に支援策を作り上げる必要があります。</p> <p>○これまで新保健所敷地の一部借地料の支出のみとなっていたが、今年の新型コロナウイルス対策の必要性から、この事業を抜本的に拡充すべきである。感染症にかかわっての泉佐野保健所との連絡調整業務への人員配置や、市内でのPCR検査、抗原検査拡充に自治体として支援すべき対策に十分な財源をむける必要がある。大阪府、泉佐野保健所、りんくう総合医療センター、泉佐野・泉南医師会、市内医療施設などとの十分な調整を行い、緊急に支援策を確立すべきである。</p> <p>○府有地と上瓦屋町会所有地との等価交換で生じる差額の支出事業との説明に付き、現状維持。</p> <p>○引き続き事業を維持するしかないものと考えます。</p>	1,126	1,126	0	1,126	
予算措置状況							R3当初予算額とR2当初予算額を比べると、増減なしとなっている。				

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備考 (R1年度 決算額)
3	健康増進健康指導事業	健康推進課	健康教育、健康相談、訪問指導等を実施。健康教育、健康相談、訪問指導等について、平成18年度より介護保険法の改正に伴い、対象が40歳以上65歳未満へと移行。	B	—	<p>○市民のニーズに応じて、対応をお願いします。新型コロナウイルスの影響で、新たな形が必要になるかも知れませんが、柔軟に対応していただくようお願いいたします。高齢福祉などと連携して、健康増進が進むように講演や情報発信出来るようによろしくお願いいたします。</p> <p>○心身の健康の維持増進指導のため、先ずは市民がどれくらい健康づくりに取り組んでいるかの的確に把握する体制が必要ではないか？</p> <p>○健康に対する意識の向上のため、健康教育講座など行い参加者も増えている。今後も参加者数が伸びるようにお願いします。</p> <p>○健康に対する意識を深め健康教育講座、もしくは個別相談を残す。また、できるだけ健康のためのスポーツ等も出来る場を広げていただきたい。</p> <p>○個別訪問指導まで行われ、大変であろうかと思いますが、引き続き、市民ひとりひとりが健康に対する意識の向上、自分の健康は自分で守ることを目的に、取り組んでいただきたいと思えます。</p> <p>○この事業の対象者が40歳以上65歳未満の市民であり、現役世代が多数であり、参加しやすい健康教室・相談になるよう考えていただきたい。</p> <p>○健康教育、健康指導は疾病の予防、健康寿命を延伸させるうえで欠かせないものである。対象が「40歳以上65歳未満の市民」と、いわゆる現役世代が対象であることから、より参加しやすい健康教室や健康相談となるよう努力されたい。また新型コロナウイルス感染症など、新たな課題にも対応できるよう内容も強化されたい。</p> <p>○健康教育と相談参加者は増加傾向にあるので、引き続き現状維持をお願いしたい。訪問の回数が前年に比べると大幅に増加しているが、更に回数を増やすことが必要と考える。</p> <p>○自分の健康は自分で守るための情報提供は必要です。</p> <p>○個人情報、プライバシー等当事者に配慮しながら、個々の意識向上に努めて下さい。</p> <p>○参加者をもっと増やせるように広報や啓発を拡充していただきたいと思えます。</p>	1,110	1,276	△ 166	1,132
予算措置状況										
R3当初予算額とR2当初予算額を比べると、166千円(13.0%)の減となっている。										
これは、消耗品費で48千円の増となった一方、健康フェスタ健康指導事業の実施方法見直しにより委託料で198千円皆減となったためである。										

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備考 (R1年度 決算額)
4	健康マイレージ事業	健康推進課	H24年度から開始した事業で、日ごろから、自ら健康づくりへの機運を高め、健康づくりへの動機付け支援と健康的な生活習慣の定着を促し、健康づくりに対する意識を広く普及する。目的達成の動機付けの1つとして、健康マイレージ達成者に地域ポイントを付与する。	B	—	<p>○健康推進に、積極的に取り組めるように充実出来るようにして下さい。広報が弱い部分があるように思いますので、そちらの充実もよろしく願います。防災意識向上と併せた、健康マイレージ推進も出来る事業が出来るととても有益になると思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>○特定検診や、がん検診等の受診向上等に向けて更なる取り組みを願ひ、拡充とする。</p> <p>○健康マイレージカードを持っている方に限り、泉佐野市の健康寿命を1歳伸びたり、泉佐野市特有の生活習慣病を克服したら泉佐野市民が報奨される制度を検討してください。市内の公共施設や町会・自治会活動等で実施している健康・体力づくり活動や講座の参加者にもポイントが付与されるようにしてください。</p> <p>○健康への関心を持ち、健診を受ける市民を増やすため、健康無関心層へのアプローチとしては有効と考える。</p> <p>○健康マイレージ事業も年々参加者や記念品交換者が増え成果も出ていると思います。今後とも、市民の方々に浸透するようお願いいたします。</p> <p>○健康を意識させるための健康マイレージ事業の参加拡大。また、それに達成した人への地域ポイントを付与することは、良いと思います。</p> <p>○地域ポイント付与は、市民の方より大変魅力的だとのお声もいただいておりますので、継続し、特定検診受診率のアップとがん検診においては、更なるアップのため周知はもとより啓発促進をお願い致します。</p> <p>○以前の記念品から「さのぼ」1000ポイントに変わり、交換者が増えたことは評価に値する。高齢者が中心だが、年齢層を拡大するより、より必要な年代にターゲットを絞って参加意欲を高める努力をお願いしたい。</p> <p>○特定検診、がん検診の啓発のきっかけの一助となると考えます。</p> <p>○利用者の世代に偏りがあったり、一部の人だけが使っているのでは。若い人に利用してもらうなら、さのぼを導入したように、若い人に人気のある他のポイント制度に乗るほうが利便性があり活用できると思う。独自のポイント制度で、他の制度とも重複しているので、わざわざ独自で行う必要があるのか疑問に思う。</p> <p>○現在の受診率を上げるため、また、国が示す目標値を達成させるためにはさらなる投資が必要と考えます。現在、実施している地域ポイント付与には賛同していますが、受診拡大のため、また、健康管理への関心度アップのために新たな施策導入も検討する必要性を感じています。</p> <p>○啓発事業として効果が出ている事業だと思います。しかしながら参加者が非常に少ないので、1万人を超えるぐらいの事業にしていきたいと思っています。</p>	968	1,019	△ 51	851
予算措置状況							R3当初予算額とR2当初予算額を比べると、51千円(5.0%)の減となっている。			
							これは、さのぼ取扱委託料が実績増により140千円の増となった一方、啓発普及業務委託が実施方法見直しで198千円皆減となったためである。			

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備考 (R1年度 決算額)
5	健康増進事業	国保年金課	保健指導事業において特定健診受診者のうち受診勧奨対象者で受診歴がない人への訪問指導及び特定保健指導対象者ではないが境界域にいる人への早期介入保健指導の実施、温水プール体験教室、市民健康ハイキング(年2回)実施している。	B	—	<p>○健康づくりは、これからも益々盛んになり、多様化や新しい情報や方法などが出てくると思いますので、積極的に取り入れたり改善できるようにしてお願ひいたします。各課とも連携しながら推進していただきたいと思います。</p> <p>○利用者の状況等の質疑応答で、①プール利用者の少なさ、実施時期を考慮しても課題ありと認識。②ハイキングに関しては春と秋の気候の良い時期も人気の要因だと思う反面、人選に関しては、同一人物が何度も選ばれるよりは、多くの人に参加できるように見直しが必要ではないか？その課題がクリアできていない状況では評価は縮小である。</p> <p>○市民に自分の健康は自分自身で守るという事を意識して頂く事が重要で、市民一人ひとりに健康増進に取り組んでもらう必要がある。そのため市民と直接接する事や普及啓発活動の充実を求める。</p> <p>○市民健康ハイキングは人気で、抽選と聞き良い事だと思います。一方温水プールの方は人気がないようで、予算の配分を考えて頂きたい。</p> <p>○健康増進として、近年マラソンとハイキングとウォーキングが増えてきています。自分のペースで運動することが大事で、それに対しての講習、イベントを増やしていただきたい。</p> <p>○健康ブームにより、運動するために、フィットネスクラブへ通われる方も増えているので、温水プール体験は、募集人数を減らして継続の方向でも良いのではないかと思います。反対に、ハイキングが人気のようなので、参加し体を動かすことの楽しさから、他の運動にもつながると思いますので、こちらは参加人数増が可能であれば、ニーズ対応が必要ではないでしょうか。</p> <p>○この事業の対象が国保の被保険者なのでそこを見据えた施策が必要だと思います。被保険者20,791人の内、無受診者の人が1,005世帯2,077人に対し、何かの形で表彰し健康増進の意識を当人のみでなく、回りにも広げるきっかけになれば良いと思う。</p> <p>○保健指導事業などの取り組みは重要と考える。一方、プールやハイキングなどの取り組みも良いが、やはり参加者数に限りがある。この事業が国民健康保険の被保険者であることから、保険料の納付意欲向上の面からも、「一年間、医療支出の無かった世帯」に対し、以前配布していた犬鳴温泉「利用クーポン券」なども検討してみてもどうか。健康を意識して生活することで、結果として医療費がかからなかった(保険を使わなかった)世帯への特典は、健康づくりの動機づけにもなると考える。</p> <p>○過去に「歩き愛です」が実施され、りんくうタウンエリア内で万歩計を付けて歩くイベントが実施されていた。元年度は国保加入者に対して温水プール体験とハイキングを実施しているが、春秋のいい季節に地元でのハイキングでより参加者を増やすことを考えても良いのではないのでしょうか。</p>	1,258	1,258	0	5,394
予算措置状況										
R3当初予算額とR2当初予算額を比べると、増減なしとなっている。										

No.	事務事業名	担当課	事業内容	市 評価	議会 評価	議会評価【個別コメント】	R3年度 当初予算額	R2年度 当初予算額	増減額 (R3-R2)	備 考 (R1年度 決算額)
						<p>○様々な事業を行う事で健康づくりの一助となるかと考えます。</p> <p>○健康ブームでもあり、健康増進は縮小するべきものではない。現在でも十分な事業をおこなっていると思うので、続けてください。</p> <p>○温水プール体験教室や市民健康ハイキングは継続して下さい。各地域で手軽に、身近に実施できること、例えば、「町内会全員でラジオ体操」などを導入してみてもはいかがでしょうか？</p> <p>○温水プール体験教室のセントラルスポーツへの委託は、健康増進センターが本来担うべき事業であると考え、委託の必要性を感じません。</p>				